

科目名 環境経済学特論 (2単位)

担当者氏名 黒瀧秀久

◆学習・教育目標

地球環境問題から地域の環境問題まで含めた現在人類が直面する地球環境問題を、経済学的・政策的・社会的に追究し、地球環境問題発生メカニズムを理解する。特に、地球環境問題を分析するにあたっては、“人間と自然のあいだの物質代謝”関係を把握することが重要となることから、「物質代謝論」の基礎理解を目標とする。また、環境経済学研究において積極的議論されている「コモンズ論」や「環境ガバナンス論」など学ぶなかで、広範かつ複雑化する地球環境問題を体系的に捉える能力を養う。

◆取り扱う領域(キーワードで記載)

物質循環論	環境史	自然・資源管理	持続可能な社会
グリーン・ニューディール	エコ・ビジネス	環境ガバナンス	コモンズ論

◆授業の進行等について(単位制度に基づく授業の進行予定・内容)

回数	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-4回	地球環境問題における環境経済学研究の諸系譜と課題 (担当 黒瀧秀久)	これまで地球環境問題を研究対象としてきた環境経済学研究においては、その基礎的アプローチに、環境汚染、アメニティ破壊、自然破壊問題、循環型社会システムの再構築、グローバルな環境問題に据えてきたが、日々深化する地球環境問題に合わせて、その分析視角も変化してきている。そこで、まず、環境経済学研究の諸系譜と課題について学ぶにあたり、環境問題を分析する理論的なキー概念として、“人間と自然との間の物質代謝”概念を理解するとともに、地球環境問題を環境社会経済史から分析する。	環境経済学研究の諸系譜と課題について学び、環境経済学の今日的位相を明らかにする。
5-8回	地球環境問題と社会体制・政治経済構造 (担当 黒瀧秀久)	地球環境問題の変化は、社会体制に大きく左右される。また、今日においては、地球環境問題の深刻化にともなって、グリーン・ニューディールをはじめた環境政策も進展していることから、ここでは現代の社会経済構造を分析するとともに、環境政策の動向を把握する。	現代の社会経済構造と環境政策の動向について学び、環境問題の要因を明らかにする。
9-12回	持続可能な社会と環境・資源管理 (担当 黒瀧秀久)	自然環境との調和が図られた社会像として「持続可能な社会」が展望されるが、そこにおいては環境・自然管理のあり方が重要となる。この点においては今日、コモンズ論や環境ガバナンス論が積極的に展開されていることから、ここでは上記の2点の論争を踏まえながら、「持続可能な社会」について分析する。	持続可能な社会と環境・資源管理について学び、今日展開される環境政策の諸矛盾を明らかにする。
13-15回	環境産業の展開と社会運動の展開 (担当 黒瀧秀久)	環境問題研究を学ぶ上では、エコ・ビジネスや環境問題への対応して展開される社会運動の動向を把握しておく必要がある。ゆえにここでは、環境産業の展開と社会運動の動向について分析する。	環境産業の展開と社会運動について学び、持続可能な社会にむけた企業や市民のあり方を検討する。

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

『リーディングス環境 第5巻 持続可能な発展』/淡路剛久ほか編/有斐閣(2006年9月)

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

『環境経済学をつかむ』/栗山浩一・馬奈木俊介/有斐閣(2008年4月)

◆評価の方法(レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト)

講義への出席(4分の3以上)とレポートにて評価する

◆その他受講上の注意事項
